

第 60 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録

1. 日 時:2012 年 5 月 18 日(金)13 時 30 分～16 時 00 分

2. 場 所:日本機械学会 第 1 会議室

3. 出席者:(委員 21 名中、出席者 19 名(うち代理 2 名)、欠席者 2 名)

小溝(阪大)、藤田(三菱重工)、飯田(東電)、木村(NIMS)、山本(電中研)、
田村(火原協)、西村(日立)、大橋(IHI)、高須(日本電気協会)、松本(東芝)、
佐藤(発電技検)、高西(関電)、野井(ロイト)、奥野(中電)、築山(パブ日立)、
三原(富山大)、天野(早大)

代理者:中村[三好(川崎重工)]、引田[川端(HSB ジャパン)]

欠席者:長谷川(新日鐵)、奥村(保安院)

オブザーバ:岡(富士電機)、茂田井(東電)

事務局:海野(記)

4. 配付資料

60-1 . 第 59 回火力専門委員会議事録(案)

60-2 . 専門委員会・分科会委員案

60-3 . 第 60 回規格委員会議事録(案)

60-4- (1) 材料分科会報告, (2) 構造分科会報告, (3) 溶接分科会報告

60-5 . パブリックコメント募集結果

60-6 . JESC 技術会議審査結果

60-9 . ASME 規格値からの SI 値取り込み方針について

60-10 . 発電用火力設備規格の販売について

参考1 . JESC 補足説明資料案

参考 . 発電用設備規格委員会 HP 用新システムテストサイト用手順書

5. 議事

(1) 前回議事録確認

[資料 60-1]

前回議事録(案)について確認を行なった結果、意見等は特になく、議事録案は承認された。

(2) 専門委員会委員、役員の承認

(2-1) 専門委員会委員の承認

[資料 60-2]

火力専門委員会の以下の新任候補の推薦および以下の委員の再任意向が報告された。挙手による採決を行った結果、出席委員全員の賛成で、次回規格委員会に推薦することが承認された。

・ 火力専門委員会:(退任)和泉 栄委員, 川端 啓之委員(5 月 31 日退任予定)

(新任候補)岡 美樹氏, 引田 一史氏

(再任候補)西村 真琴委員, 野井 伸悟委員

各分科会の以下の委員の再任意向および役員の互選による推薦が報告された。挙手による採決を行った結果、出席委員全員の賛成で承認された。

- ・ 材料分科会: (退任)南委員
(再任候補)俣野委員
- ・ 構造分科会: (再任候補)西野委員, 島田委員
(副主査候補)西野委員(再任)
- ・ 溶接分科会: (新任候補)水谷氏(東工大)
(再任候補)茂田井委員, 山下委員, 橋本委員
(幹事候補)茂田井委員(再任)
- ・ 配管減肉分科会: (退任)浜田委員, 西口委員
(再任候補)近藤委員, 田村委員, 下村委員, 山崎委員, 朝倉委員, 江藤委員
(幹事候補)近藤委員(再任)

(3) 規格委員会、分科会他報告

(3-1) 発電用設備規格委員会報告

[資料 60-3]

第60回規格委員会の審議内容のうち、火力専門委員会に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 詳細規定案材料分科会関連について書面投票における反対意見が事前の意見対応により規格委員会開催前に取り下げられたことが報告され、意見対応による修正案が提案された。審議の結果、修正案が編集上の修正であることが承認され、当該規格案は可決承認された。
- ・ 詳細規定案材料分科会関連の承認を受け、基本規定および事例規格と詳細規定の3規格について公衆意見の募集を開始することについて承認された。
- ・ 詳細規定案材料分科会関連の承認を受け、基本規定および事例規格と詳細規定の3規格について日本電気技術規格委員会(JESC)へ審議依頼することについて承認された。

(3-2) 材料分科会報告

[資料 60-4-1]

木村委員(材料分科会主査)が、第64回材料分科会(H24.5.8)の審議事項および決定事項について報告を行った。次回は2012年8月22日(水)に開催予定。

- ・ 引用規格の年版指定について審議を実施
 - ・ ASME は 2011Addenda
 - ・ 発電用火力設備の技術基準は引き続き情報収集にあたることとした

(3-3) 構造分科会報告

[資料 60-4-2]

飯田幹事(構造分科会主査)が第72回構造分科会(H24.5.11)の審議事項および決定事項について報告を行った。次回は2012年8月24日(金)に開催予定。(次回火力専門委員会開催日と重なったことから別途調整することとなった)

- ・ 次回改訂作業の方針について審議し、ASME については2011Addendaで作業を進め、火技解釈は改正された場合に取り込む方針とした。
- ・ ASME からの SI 値取り込み方針について原子力専門委員会側との調整状況について

報告された。

- ・ JESC 補足説明資料案(5月31日 JESC にて使用予定)について紹介と意見の募集を行った。

(3-4) 溶接分科会報告

[資料 60-4-3]

茂田井氏(溶接分科会幹事)が、第51回溶接分科会(H24.5.16)の審議事項および決定事項について報告を行った。次回は2012年8月7日(火)に開催予定。

- ・ 次回改訂作業の方針について審議し、ASME については2011Addendaで作業を進める方針とした。
- ・ ASME からの SI 値取り込み方針について原子力専門委員会側との調整状況について報告された。
- ・ JESC 補足説明資料案(5月31日 JESC にて使用予定)について紹介と意見の募集を行った。

(3-5) パブリックコメント募集結果報告

[資料 60-5]

発電用火力設備規格関連3件のパブリックコメント募集を行った結果について報告した。

なお、パブリックコメント募集にあたり、運営規約に定められた開始時期及び規格種別により決められた意見受付期間(3件とも1ヶ月)を満たしていることを併せて報告した。

<パブリックコメント募集対象(3件)>

- ・ 基本規定(2012年版)
- ・ 基本規定(2012年版) 事例規格 発電用火力設備における高クロム鋼に対する寿命評価式について
- ・ 詳細規定(2012年版)

<各パブリックコメント募集受付結果(3件共通)>

受付期間:3月26日(月)~4月26日(木)

受付結果:意見なし

(3-6) 日本電気技術規格委員会(JESC)技術会議審査結果報告

[資料 60-6]

4月24日に開催されたJESC技術会議での審査結果を報告した。

<審査対象>

- ・ 日本機械学会 発電用火力設備規格 基本規定(2012 年版)とその事例規格, および詳細規定(2012 年版)に関する省令への適合性

<審査結果>

審査日:2012年4月24日(火)

審査機関:第31回JESC技術会議(JESCの一次審査)

審査結果:特に意見無しで, 出席委員全員の賛成により承認された

<今後の予定>

JESC(本委員会):2012年5月31日(木)にて最終審査実施予定。

承認されればJESCから原子力安全・保安院電力安全課に活用要請される予定。

(3-7) JESC補足説明資料案について

[資料:参考1]

JESC 技術会議後にJESC事務局からの助言を受けて作成した補足説明資料案について紹介を行った。JESC 本委員会が5月31日に開催されることが報告された。

(3-8) ASMEからのSI値取り込みについて

[資料 60-9]

発電用火力設備規格2012年版を策定時に課題として挙げられていたASMEからのSI値取り込みに関し発電用設備規格委員会として統一ルールを決めることとなっていた件について、原子力専門委員会との打合せ内容(お互いの現状確認、今後の進め方、スケジュール)について飯田幹事が報告した。6月の規格委員会で検討の方針を報告し、12月の規格委員会までを目標に取り纏める予定。

(3-9) 発電用火力設備規格の出版販売について

[資料 60-10]

発電用火力設備規格の過去の出版販売状況について報告された。今後2012年版を出版するにあたり機械学会内の出版センターにて審議を受けることとなるが、出版センター担当の事務局から助言された懸念材料として過去年版の在庫の扱いと今後売れ行きが好調となりうる要素について整理するための情報交換を行った。

過去年版の在庫のうち2005年版以前のものは1,2部程度の必要最小部数を残して廃棄し、コピーサービスにて対応することで良いこと、2012年改訂版の出版についての出版センターへの審議対応は事務局にて行うことが確認された。

(3-10) 次期システムについて

[資料:参考]

発電用設備規格委員会ホームページ機能としてファイル共有システムを今年度秋頃導入予定であり、既に一部委員会にて試運用がなされたことを事務局より報告した。今後、必要なカスタマイズと規格委員会全体の共通運用ルールを定めていくことについて情報提供した。あわせてファイル共有システムの機能の簡単な説明と今後共通運用ルール以外の運用ルールを火力専門委員会内で統一したい旨、協力を要請した。

(4) 審議事項

(4-1) 次回改訂作業について

[資料無し]

次回改訂に向けた作業の方針について審議を行い、ASMEについては2011Addendaで作業を進め、火技解釈は改正動向を注視し改正された場合に取り込む方針とした。

(主な意見)

- ASMEは2011Addendaの後、2013Editionを出版し、以降2年毎にEdition版を出版することとし、今後はAddendaは出さないとの情報提供あり。
- ASMEの2011Addendaで作業を進めることは良いと思うが、随時発行されるCode Caseの取り込み基準はどうするのか。
- Code Caseの取り込みについては従来よりCase毎の判断としている。統一するのは難しい。
- ASME2013Editionまで待つという選択肢がある。また、2011Addendaで作業を進めて2013Edition出版時点で見直しをするという選択肢もある。

- ・ 実際の作業を行う分科会委員には2011Addendaで作業を進めて2013Edition出版時点で見直しをすることは大きな負担になると思われるが2011Addendaで作業を進めたいとの分科会意見は了承する。

5. 次回開催予定

日 時:2012 年 8 月 24 日(金) 13:30～17:00

場 所:日本機械学会 第1会議室

以 上